

グループ A

旧枝咲き（弱剪定）の系統



モンタナ系「ローズパッド」。八重咲き品種。

モンタナ系 / 早咲き *Montana Group*

とても人気のある系統で、つるがよく伸び美しい花を株いっばいに咲かせる。おすすすめは、アーチに誘引して立体的に見せること。大株に育てればアーチが花で埋め尽くされ圧巻。ほかに木に絡ませたり、ロックガーデンに植えて枝を岩から垂らして見せるなど、少し変わった方法もある。



冬咲き品種のシルホサ系、秋から咲き始める。

シルホサ系 / 冬咲き *Cirrhosa Group*

秋から春にかけて咲く。鉢植えにしてオベリスクスなどで仕立てるとよい。冬の花のない時期などは、数鉢飾るだけで庭が華やいでみえる。道路際に飾ると、道行く人の目にも美しい植栽に。夏の時期はつるが枯れたように見えるが、休眠中なので涼しい場所に移動して管理する。

株いっばいモンタナを咲かせよう

モンタナの花をいっばいにするには少しコツが必要です。



剪定する。

モンタナの枝数を増やす剪定

新芽が1mほど伸びた時点で枝先を切り、先端の節から新しい枝を二股に伸ばしていき、枝数を倍々にしながら花芽の数を増やす。

あまりに多く枝を出しすぎると、風通しが悪くなり下になる枝から花が咲かなくなるので注意。

アーマンディー系 / 春咲き常緑品種 *Armandii Group*

葉は常緑で厚く光沢があり、生育旺盛でつるも大きく向る。鉢植えよりは地植えに向く。フェンスやアーチなどに這わせたり、木製のポールに誘引し、1本の木のように見せ、それを数本並べて街路樹のように植栽したりしてもおもしろい。4月上旬に、甘い香りのする花をたくさん咲かせて楽しませてください。



早春の花のない時期に咲き、甘い香りを放つアーマンディー系。



フォステリー系 / ムーン・ビーム。

フォステリー系 / 春咲き常緑品種 *Forsteri Group*

ニュージーランド原産で小さく可憐な花が咲く系統。つるがそれほど伸びないので、寄せ植えなどに利用するのにもよい。多湿を嫌うため水のやりすぎに注意。

アトラゲネ系 / 早咲き *Atragene Group*

高山性の性質をもつ系統で、高温多湿な環境での栽培は難しい部類に入る。そのため地植えではなく、鉢植えにして排水性のよい土を用いて栽培する。オベリスクスなどに誘引するのもよい。



アトラゲネ系「ブルー・ダンサー」。

集まる性植物の女王 クレマチス
できるだけ簡単管理
クレマチスの特徴を知って栽培

大阪府立 花の文化園 井之本 一夫



運送大輪系「プリンス・チャールズ」。

すてきな植物に出会うとワクワクします。Queen of Climbers — つる性植物の女王と呼ばれるクレマチスも、そんな植物の1つです。でも、「育て方がよくわからない」「どんな風に植えたらいいの?」「結構めんどうくさい」など、ガーデナーの悩みはいろいろ。そんな時は簡単に、計画的に行きましよう。キーワードは「できるだけ簡単に、あまり難しく考えない」。そんな栽培方法をご紹介します。

大阪府立花の文化園勤務。「クレマチスガーデナーをはじめ「シェードガーデナー」や、香りの植物を集めた「香りの丘」「エビネ園」「秋の七草通り」ほか、多くのガーデナーエリアを担当。今ひとりに人気のある原種シクラメンを集めた「原種シクラメンガーデナー」を新たに開設。

クレマチスの系統

クレマチスの系統を知るとは、クレマチスの栽培方法を知ることと一緒です。カタログなどを見てみると、だいたい次のような系統に分類されています。このグループ分けは、剪定など管理方法の目安として考えることができますので参考にしてください。

A	旧枝咲き	前年枝に花芽をつける	弱剪定
B	新枝咲き	新しい枝に花芽をつける	強剪定
C	新旧両枝咲き	前年枝、新しい枝から花芽をつける	任意(中)剪定

系統によるグループ分けと特徴を生かした植え方、使い方

クレマチスを購入する最大のポイントは、好きになったクレマチスを選ぶことです。栽培するクレマチスが決まったら、系統、特徴（剪定方法、開花期、草丈、花の大きさ、花色、常緑、落葉、茂り方など）を調べ、それを生かした植え付けを考えます。

クレマチスの可能性は至るところにあります。鉢や庭などにアーチやパーゴラ、トレリスなどを使って植えます。植え付ける場所もさまざまですし、バラなどほかの植物と一緒に植えればお互いのよさが引き出され、その美しさが倍増します。特徴を生かした植栽は、庭をより一層すてきなものにしてくれるでしょう。



ポタンツル。日本にも自生する原種のクレマチス。



センニンソウ。日本の風情で生育旺盛。大株になると秋には灼くほど白い花を一面を覆いつくす。

フラミユル系 / 遅咲き
Stammula Group

日本に自生するセンニンソウ（仙人掌）の仲間。夏から秋にかけて小さな花をたくさん咲かせる。草丈が伸びる品種は地植えにしてアーチやフェンス、樹木などに絡ませたり、生垣などの間に植え、自然な感じをつるを伸ばしたりするのにも趣がある。草丈の低い品種は鉢植えも可能。

インテグリフォリア系 / 遅咲き
Integrifolia Group

木立性または半つる性になるのが特長の系統。草丈も20～200cmとさまざま。小ぶりなものは寄せ植えや、ポーターガーデンなど花壇への植栽にも向く。群生する姿は見事。大きなものは花壇や鉢植えに適している。四季咲き性なので、剪定すれば年に数回、美しい花を咲かせる。

インテグリフォリア系の「白蘭」。芳香がある。草丈は40～50cmほど。



グループ C

新日両枝咲き (任意剪定) の系統



テッセン。フロリダ系の交配種。

ヴァイタルバ系 / 遅咲き
Vitalba Group

夏から秋にかけて、小さな白い花をたくさん咲かせる。生育旺盛なため誘引はやや困難。アーチやフェンス、樹木などに自然に絡ませて栽培するのがよい。日本に自生するポタンツルもこの系統に属する。



ヴァイタルバ系の「カイト」。盞形をした白い花はクレマチスでは珍しい。

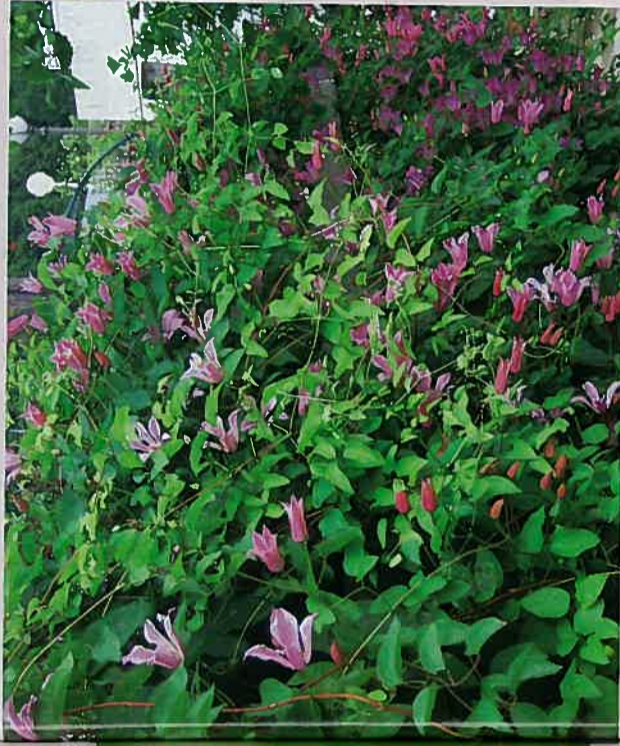
ヴィオラ系 / 遅咲き
Viorna Group

壺形、ベル形をした小さな花はとても愛らしく人気がある。鉢植えにしてオベリスクなどに誘引し楽しむのもよい。四季咲き性の系統で、春から秋にかけて花を楽しむことができ、剪定作業も容易。

グループ B 新枝咲き (強剪定) の系統

テキセンシス系 / 遅咲き
Texensis Group

人気のある系統で、原種のテキセンシスに大輪系の品種を交配させて作り出された品種。5月中旬～7月上旬に、赤やピンク色をしたチューリップ形やベル形のかわいらしい花を横向きに次々と咲かせる。生育旺盛なのでアーチやポールなどに仕立てるのもよいが、壁面やフェンスなど一面に咲き誇る姿は魅力的。剪定作業も楽。



テキセンシス系のウォールガーデン。左から「ダッチェス・オブ・アルパニー」「サートレポール・ローレンス」「プリンセス・ダイアナ」。



テキセンシス系から遅咲き大輪系に続くフエンスで仕立てた、ウォールガーデン。

ハラクレフォリア系 / 遅咲き
Jloracleifolia Group

日本に自生するクサボタンの系統で、木立性の性質をもち、草丈が50～200cmになる。大きさに合わせてポーターガーデンなどに使用すると、自然な感じに仕立てることができ。大株になるものは樹木とともに後方に、中株になるものは中ほどに植え付けると、庭全体にボリューム感を出すことができる。小さな薄紫の花は、庭に素朴な感じを与えてくれる。



クサボタン。日本の原種クレマチス。

花の文化園

大阪府立唯一の植物園で、関西では珍しいクレマチスガーデンをバラ園に併設。園には約200品種400株以上のクレマチスがあり、4月初旬のアーモンドティーから始まりモリタナなどの早咲き系、5月初旬からはクレマチスとバラの美しさを併せて楽しむことができる。また、クレマチスが最もゴージャスに咲き誇る6月初旬には、園内に自生するササユリも咲き始め来園者の目を楽しませる。

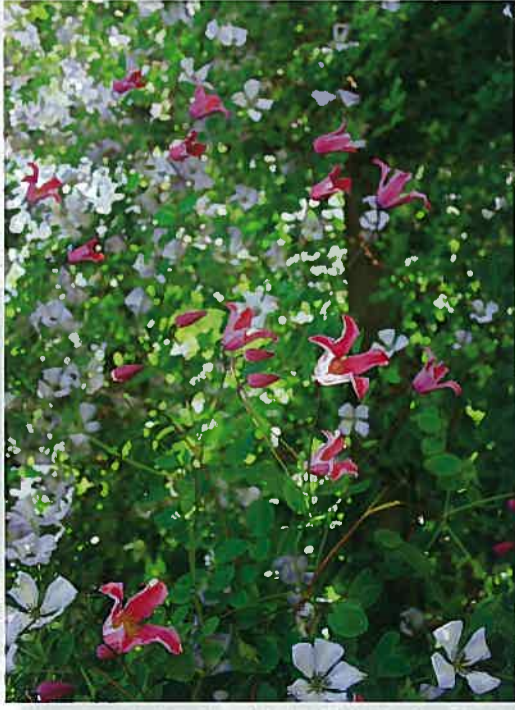
「大阪府立 花の文化園」

大阪府河内長野市高向 2292-1
☎ 0721-63-8739

〈アクセス〉★南海高野線または近鉄長野線「河内長野駅」前バスターミナル7番より、南海バス「高向」行または「日野・湊畑」行乗車。「上高向」で下車、徒歩約15分★河内長野駅から車で約10分
〈入園料〉大人500円、高校生300円（12月～1月は大人300円、高校生200円）※中学生以下無料
〈開園時間〉9:00～17:00（12月～1月は10:00～16:00）※入園は開園の1時間前まで
〈休園日〉毎週月曜日（休日にあたる場合はその翌日）※4～5月は休まず開園、年末年始（12/28～1/4）



アーチに仕立てたモリタナ系「ローズバッド」。



テキセンシス系とピチセラ系（いずれも強剪定）のクレマチスを植えた、ウォールガーデン。

栽培のポイント

植え付け

クレマチスは日光を好む植物です。つるは光を求めて生長します。クレマチス同士を並べて植えるなら、株間は70～150cmくらいあけ、なるべく剪定方法の同じもの（同系統）を植える方が管理しやすいでしょう。

誘引・灌水

つるが伸びたら誘引を行います。水は乾いたらたっぷりと与えましょう。

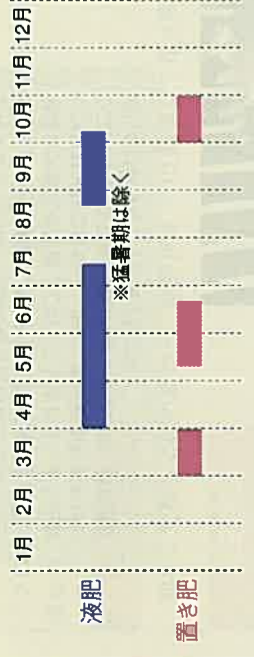
植え替え

植え替えは鉢植えの場合、鉢底から根が出てきたら行います。時期は3月から10月ごろがよいでしょう。根鉢を崩さないように気をつけて、ひと回り大きい深めの鉢に植え直します。庭植えの場合は、できるだけ行わない方がよいでしょう。

肥料は年3回（開花前、開花後、休眠前）

クレマチスは肥料を欲しがらる植物です。緩効性化成肥料や有機質肥料を開花前の早春（3月）、開花後の晩春～初夏（5～6月）、休眠前の中秋（10月）の3回施します。できれば4～10月にかけては、猛暑期を除いて500～1000倍に薄めた液肥を2週間に1回ほど与えてください。

●施肥時期●



植え付けをするなら深植え

地下部の節から新しい芽が伸び出し、複数本になるので、地上部が1本枯れても安心。

1日4～5時間以上日光の当たる、風通しのよい場所に植え付ける。



肥料は株元から離して

株に直接肥料が触れないように、株元から離して施す。効力所に分散するが、ぐるっと株を囲むように与える。

病害虫対策

クレマチスは見かけによらず丈夫な植物です。よく日が当たり、風通しのよい場所で元気に育てれば、病害虫が心配はあまりありません。とはいえ環境や管理がよくなないと、病害虫が発生するので早めの対策が必要です。病害虫対処にあつた薬剤を選び、説明書をよく読み、取り扱いに注意して使用してください。害虫：アブラムシ、ナメクジ、赤ダニなど 病気：うどんこ病、灰色かび病、白絹病、立枯病など

品種によって咲き方が違う系統

早咲き大輪系 (A) (C)

Early Large-flowered Group

旧枝咲き弱剪定、品種により新旧両枝咲き任意（中）剪定

4月下旬ごろから大きな花を咲かせる。花鉢であんどん仕立てにしたり、格子のトレリスなどに誘引するなどして仕立てる。この系統はつるがそれほど長く伸びないので、あまり背の高いポールやアーチなどは向かない。単独で仕立てるのもよいが、ほかの草花と一緒に植えてもよい。八重咲き大輪系もここに属する。 ※全体的に (B) (弱剪定) と考えておくとう管理が楽。

遅咲き大輪系 (B) (C)

Late Large-flowered Group

新枝咲き強剪定、品種により新旧両枝咲き任意（中）剪定

‘ジャックマニー’ や ‘プリンス・チャールズ’ など多花性四季咲きの品種が多く、クレマチス初心者の方にもおすすめ。アーチやポールなどに仕立てるのもよいが、壁面やフェンスなどウォールガーデンに使用するとゴージャス。ウォールガーデンの場合、同じ品種を株間70～120cmに植えて統一感を出し、壁一面に咲き誇る姿を楽しむのがおすすめ。



‘フラウ・ミキコ’ とラムズイヤー。銀緑色をしたラムズイヤーとの対比が、クレマチスの美しさを一層引き立てる。



早咲き大輪系の ‘美佐世’。



遅咲き大輪系 ‘ビルドリオン’。

遅咲き大輪系の ‘フルディーン’。美しい白色をしている。

タンゲチカ系 / 遅咲き (B) (C)

Tanguica Group

新枝咲き強剪定、あるいは新旧両枝咲き任意（中）剪定

黄色系の花を咲かせるクレマチス。生育旺盛だが、原産地は冷涼な気候のため、暖地では庭植えよりも鉢で栽培するのが無難。排水性のよい用土を使用すること。オベリスクなどに誘引してもよい。



遅咲き大輪系の ‘ロマンティカ’。少し黒みかかった紫の花。

タンゲチカ系の ‘ランプトンバーク’。香りがあり花後のタネも観賞価値がある。

A 弱剪定旧枝咲き (前年枝に花芽をつける)

該当する系統

シルホサ系、モンタナ系、フォステリー系、アーマンディー系、アトラゲネ系、早咲き大輪系、ハンショウヅル、一季咲きの品種など。

咲き方

前年に生長した枝の節から、新芽が1～6節伸びて花が咲きます。

剪定方法

右図参照。冬の剪定は休眠期の2月ごろに行う。古枝に花芽を持っているので、枯枝や花芽のない枝を取り除く程度とする。誤って強剪定してしまうと花が咲かなくなるので注意。シルホサ系など冬咲きの系統は剪定時期にずれが出る。

B 強剪定新枝咲き (新しい枝に花芽をつける)

該当する系統

ピチセラ系、テキセンシス系、ヘラクレオフィオリア系、ウィタルバ系、フラミュラ系、ウィオルナ系、インテグリフォリア系、遅咲き大輪系 (ジャックマニエ系)、タングチカ系など。

咲き方

地上や地中から新芽が伸び、それが2～10節生育すると開花する。四季咲き性です。

剪定方法

右図参照。冬の剪定は休眠中の2月ごろ。充実した花芽を残して剪定するか、地際から剪定する。

C 任意(中)剪定新旧両枝咲き (前年枝、新しい枝から花芽をつける)

該当する系統

フロリダ系、大輪咲きの中生種、遅咲き大輪系の一部、タングチカ系など。

咲き方

前年に生長した枝の節から、新芽が4～10節伸びて花が咲きます。

剪定方法

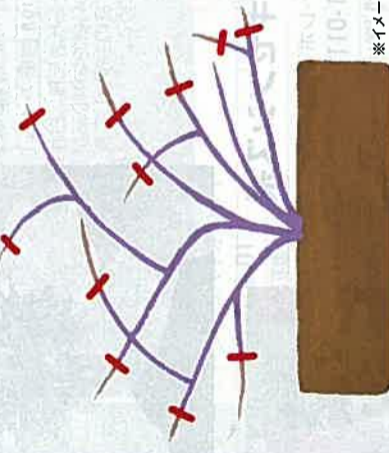
旧枝咲きと新枝咲きの中間タイプの性質を持ち、花後は枝をどの位置で切っても(任意剪定)新しく枝が伸び、再び花を咲かせることができる(右図参照)。

冬の剪定は休眠中の2月ごろ。花芽を確認しながら充実した芽を残して剪定する。



モンタナ系

A 弱剪定



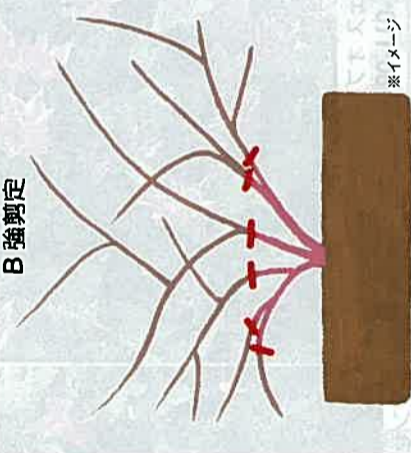
※イメージ

花後は、花首より1～2節下で剪定し、その後には生長するつるはそのまま伸ばす。3月までに未開した花を摘み取り剪定を終らせる。



インテグリフォリア系

B 強剪定



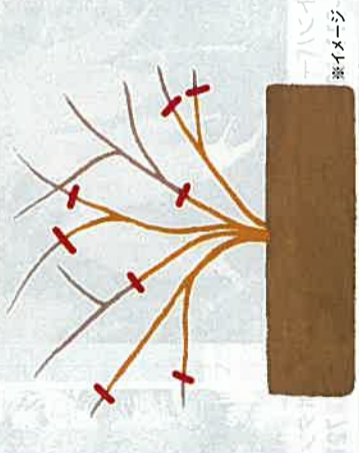
※イメージ

花が全体の1～3割が咲いたところで、枝を地際から1～2節残して思い切って剪定する。その後、新たな枝が10節ほど伸びるまでに花が咲き、これを繰り返すことで2番花、3番花と楽しめる。



フロリダ系

C 任意(中)剪定



※イメージ

1つの株の中で、枝ごとに強・中・弱の剪定をさせることで、長期開花を咲かせることができる。

1 管理の基本は継続性

1年の中で行う、植え付け、誘引、灌水、剪定、施肥、病害虫対策などの作業を忘れずに行うようにしてください。

2 暑さ対策... 株元にはカバープランツを

日光を好む植物ですが、株元に直接日光が当たると、地温が上がって株が弱ることがあります。対策としてカバープランツを植え込みます。お好きな植物を植えればよいのですが、フウロソウやラムズイヤー、一年草などを利用してみてはいかがでしょうか。カバープランツを利用することで花壇の見栄えもよくなります。

フウロソウをカバープランツにしたウォールガーデン、どちらも主役に。クレマチスは遅咲き大輪系の「プリンス・チャールズ」。

3 3つの剪定方法による系統・グループ分け

美しいクレマチスをできるだけ簡単に管理して長く楽しむために、作業を単純化し、あらかじめ計画しておきましょう。除草、清掃、ほかの植物の世話などは、クレマチスだけでなく、総合的に庭を美しくするために必要なことです。先に述べましたが、同じ系統同士を植え付けておけば、同じ時期に同じように剪定するだけでよく、効率的です。

違う剪定方法(系統)を混植すると管理が大変



※イメージ

A 弱剪定 B 強剪定 C 任意(中) 剪定

例えば... 早咲き大輪系(弱剪定)と

テキセンシス系(強剪定)の場合

早咲き大輪系は弱剪定なので少しだけ枝を剪定。テキセンシス系は、地際の節を数節残してばっさり切ってしまう強剪定。テキセンシス系を切る時に、早咲き大輪系を間違えて切ってしまうのを注意しなければなりません。また、剪定時期もテキセンシス系の方が2週間～1カ月遅くなるので、剪定を2回しなければならず二度手間です。



必ずラベルに品種名を書き、剪定方法の記号を書いたラベルを付けておきます。

剪定は3パターン

A	弱剪定	旧枝咲き	前年枝に花芽をつける
B	強剪定	新枝咲き	新しい枝に花芽をつける
C	任意(中)剪定	新旧両枝咲き	前年枝、新しい枝から花芽をつける